

平成30年度 東京都立大泉高等学校・附属中学校 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立大泉高等学校・附属中学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(広報情報主任兼務)=事務局長、経営企画室長 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、中・高副校長、経営企画室長、教務部主任、主幹教諭(生活指導担当)、
進路キャリア部主任、主幹教諭(広報情報担当)、計8名
- (4) 協議委員の構成
地域有識者、PTA顧問、PTA会長、練馬区立大泉東小学校長、練馬区立大泉第二中学校長
近隣住民代表、同窓会役員、 計7名

2 平成30年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成30年6月22日(金) 内部委員8名、協議委員6名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明(各分掌より報告)、意見交換
 - 第2回 平成30年10月15日(金) 内部委員7名、協議委員6名
授業公開、教育課程の変更、生活指導、進路指導等、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価アンケートの内容検討、協議
 - 第3回 平成31年2月15日(金) 内部委員7名、協議委員6名
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
本年度の教育活動と次年度に向けた方向性の確認(各分掌より報告)
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成30年10月15日(金) 内部委員3名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けアンケート内容等の検討
 - 第2回 平成31年2月15日(金) 内部委員3名、協議委員1名
評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：938人	回収：918人	回収率：97.9%
・12月 保護者全員	対象：938人	回収：727人	回収率：77.5%
・12月 教職員	対象：73人	回収：73人	回収率：100.0%
- (3) 主な評価項目

・学校生活全般	
・学習指導	教え方・進度・家庭学習・チャイム開始終了
・生活指導・進路指導	ホームルーム・相談活動・体罰暴言・進路行事・進路情報
・特別活動	ホームルーム・学校行事
・健康・安全	健康管理・美化活動
・施設・設備	施設・設備
・教員の勤務	
- (4) 評価結果の概要(学校及び校長への意見・提言内容)
 - ・生徒や保護者の満足度80%以上を目標として設定した。中学生については概ね達成できたが、高校生の満足度がやや低い。特に授業に関する満足度の点で高校生の結果は、「そう思う」よりも「ややそう思う」が昨年度より減った。全体的な満足度は、高校生で昨年度より若干上昇し、中学生で減少した。施設・設備、学習進度・課題、進路指導體制等について、生徒の評価は昨年度より低下している。また、昨年同様、個別意見を多くいただいた。
- (5) 評価結果の分析・考察(学校及び校長への意見・提言)
 - ・主だった自由意見に対して、管理職、経営企画室、生活指導部、進路キャリア部等で、分析・考察を行い、回答を作成した。これらを更に、校長がまとめて、学内に周知した。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・保護者をはじめとする来校者が本校生徒の服装や態度、校内での活動などに関心を持っていることが感じられた。具体的などころでは、美化・環境整備への意見が目立った。学校評価アンケートや授業評価アンケートの有効活用が学校経営に役立つことを再認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・アンケートの実施が回収して終わりではなく、生徒や保護者にどう返していくか、相互理解を深めるためにどう取り組むか。
- ・アンケートにポジティブな意見が取り上げられるように質問事項を検討する。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・校務分掌・教科を中高一本化して、中高のより強い連携を図る。
- ・中学・高校と併せて朝の職員打合せを行い、情報の共有を図る。
- ・ホームページによる情報発信を積極的に行い、在校生・受験生・地域の方などに本校の活動を理解してもらうようにする。
- ・高校からの入学者を増やすためにも、時間をかけて手当をし、根気強く育てていることを内外に知らせるようにする。
- ・桜の時期に学校開放するなど地域に学校を開く一方で、通常時は校門の閉鎖など防犯対策を徹底する。

(2) 学習指導

- ・課題の量は、生徒・保護者ともに受け止め方に違いがある。一律に量を減らすのではなく、生徒の学習内容定着度や教科間のバランスや課題テスト内容等を検討していく。
- ・内進生と高入生の進度差をこれまで以上に補習等を活用して埋めていく。

(3) 特別活動

- ・部活動の数が中高一貫校の中で特に多いため、顧問の貼り付けもままならない現状がある。指導する側の教員の負担等も考え、今後は縮小・統合などが必要である。
生徒の意見で活動時間が多い少ないと印象がバラバラであるため、今後も活動状況をよく確認していく。部活動の保護者会の実施についても各部活動での温度差をできるだけなくしていく。

(4) 生活指導

- ・生徒のあいさつ等生活態度の改善をすすめていく。また、制服指導も共通認識をもって進めていく。
- ・登下校の際の交通ルールを順守させ、防犯対策を徹底していく。

(5) 進路指導

- ・都の施策で進路指導体制について支援を受けている。補講・補習の設定を教員個人で提供するのではなく、教科の責任で提供していく。生徒に配布する「進路の手引き」の作成等も使用時期に間に合うよう、迅速に行っていく。新テストに向けた情報収集を行い、教員間で情報共有をしていく。

(6) 健康・安全

- ・いじめ対策委員会の月1回の定例化と、生徒情報を共有し、職員会議等で発信できた。来年度も継続していく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
4	3					

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 12回 参加者なし 企画調整会議 34回 参加者なし

【成果】 参加者なしのため、成果はない。

8 その他

- ・評価精度を向上させるため、学校公開等の機会を増やしていく。